

学校長通信 No.14

平成 26 年度 3 学期終業式 式辞 卒業生について

先日 3 月 3 日、26 期生の卒業式も終り、いよいよ新年度に向けてのスタートが切られました。皆さんもそれぞれ進級し、新 3 年・新 2 年としての一年を迎えることとなります。来週の入学選抜試験で新入生も決まりますので、先輩としてもお手本となるよう、よろしくお願いします。

今日、みなさんにお話ししておこうと思っていますのは、このあいだ卒業していった 3 年生をみて感じてことです。235 名の生徒が、それぞれの夢と計画を持って巣立って行きましたが、その中でも、大きく分けて 2 つのパターンがあったように思います。

1 つめは、「将来の自分」をしっかりと見定めていて、それを実現するためのステップとして進路を自分で決めて、それに沿った道に飛び込んでいった人。もちろん、全員が第一志望にいったということではありませんが、方向性としてはしっかりまもっていました。もうひとつは、「将来の自分」を見定め切れなかったために、夢を実現できたかどうか分からないまま進学する結果になった人。

どちらがどうという意味で対比したわけではありません。将来どちらが絶対に良い、というわけでもありません。私自身はどうだったかというと、高校時代には「将来の自分」を見つけ切れずに大学進学したほうです。ただ、漠然とした将来のために、いわゆる「できるだけ有名で難関といわれる大学」に行っとくほうがいだろう、という程度の考えしかなく、そのかわり 2 年生 3 学期からの 1 年間は一生懸命に勉強しました。そんな漠然とした気持ちで良かったのかどうかは、実は今でもよく分かっていません。

何回も言いますが、ここでみなさんに言いたいことは、早く将来の自分を見定めて計画を立てなさい、ということではありません。ゆっくりと考えていくのもひとつの方法だからです。でも、早めに見定めておいたほうがこれからの計画が立てやすく、自分のモチベーションを上げていきやすいことだけは確かだと思います。今年の 3 年生を見ていてそう思いました。結果として大満足の進路実現ができた生徒たちの多くが、そうだったからです。つまり、夢や希望が自分の中ではっきりしている人は何のために何の勉強をしたらいいかが良く分かっているし、結果として一日 2 時間以上の家庭学習（学校での自習も含む）ができています。そして、その勉強のための安定した生活のリズムを維持するため時間管理ができています。

遅刻もしない。このような学校生活を送っていた生徒のほうが、より進路実現ができていたように思います。

面白いエピソードをひとつだけお話しておきます。ある生徒 A 君のことです。彼は（本人が言うには）「これと言って他人に自慢できることはありませんが、小学校の頃から今までずっと続けていることがあります。それは1年中半袖で生活していることです。だからといって特に目的や意味はありません。でも、ここまできたらもう止められないのと、他人に簡単に真似されないし、真似もしてくれないことなので、誰もついてこれない領域まで続けてみたいです。」と話していました。確実に言えることは、①こだわり続けていることへの驚きと②ぶれない意思です。彼は、この話をして見事に自分の第一希望の進路を実現しました。勉強であれ何であれ同じことなんだと、改めて気付かされた次第です。

夢とか目標を持って・・・というの、突き詰めればこういうことなんだと思います。今何をしているか。今から何をするか。何かを継続してやってみないと、自分のことが何もわからないまま、ずっと迷っているだけで時間が過ぎていくのだと思います。

まとめておきます。

とにかく将来何をするにしても、勉強しておかないと実現するのが難しいですから、勉強してほしいと思います。自分でとんとんできるという人はそれでいいのですが、そうでない人は友達とサークルやチームを作って、例えば、元祖勉強部、めざせ**大学クラブ、めざせ看護チーム、子ども大好き会、等有志グループを作ってみんなで勉強すれば部活みたいになって友達と励ましあいながらやれて勉強する勢いがつくのではないのでしょうか。